『國民新報』1940年4月21日

青年の心一つ[[1]](#footnote-1)

　ヨーロツパは とうとうになりました。にする のによつてはわがもたなければ ならないやうになるかもれませぬ。それは一はののためであり、一は洋ののためであります。でありますから、が のによつて、一に したとしましても、まだまだわがにはいろいろなきながされてゐるであります。しかして、かゝる きなをするには きながとなり、きなを するには、のをれた一が となるのであります。こののをにして、のを するは ないのであります。このがうまくされゝば、わがのは 々になるのでありますから、これはといふものではなくして、に千一のであるのであります。

　このにり、ににおひしたいことが あります。それはかと しますと、〝として一をせよ″といふことであります。のとしてのととをいやがにもめよといふことであります。

　のは のの三の一あります。だからの、くとも三の一をするやうに せよといふことであります。、そのの萬にける、にいても、、、そのにいても、くもが、の三の一をするで かうといふことであります。

　一、一の ありがたきにより、は とのになつたのでありますが、にになるとならぬとは、一につての にあるのであります。そのといふのは ではありませぬ。によつて、たるをすことであります。はによつて、はにくことにより、はのにより、はにしみ、にすることにより、そしてよりもづ をもしきにりげることによつて、としてのを はすことであります。

　ところがにはまだをてないものや、なをつてゐるものや、わきののきをつて、きずられてくといつたやうなえらないのものが、あるやうにはれます。これはになく、しく、けしからんことでありまして、かゝる、なを一するいがにの一つにつてゐるのであります。

　。ののをかなぐりてゝ、一 下のとしてれかはるようしてさい。

1. 新聞版のタイトルは「青年の心の一つ」と誤記され、単行本『同胞に寄す』で修正されている。この文章は一部「わかちがき」がなされている。 [↑](#footnote-ref-1)